

2年 日記を書こう ～「活用編」～

先日は、出来事のようにすが伝わる日記を書くために、どのようなこと気をつければよいのかをとらえたり、見本の三文日記の様子ができるように書き直したり・書き足したりする「習得」の場面についてお知らせしました。今回は学習したことを活かし、ゴールデンウィークに経験したことのようすがよく伝わるように注意して、日記を書く場面についてお知らせします。

まず、出来事をよく思い出してポイントごとにワークシートに整理しました。

Aさんのワークシート

【きもち】なんでもシルバニアパークへ行ってたりどほいじめいしんをたのびたのでうれしかったです。

【くわしく】シルバニアパークでフleaちゃんとしんをとりました。

【いたい】ゴールデンウィークにがそくて、ハーベストのおかへ行きました。

【きもち】ハーベストでいっぱいあそんでたのしかったです。

Bさんのワークシート

【きもち】ゴールデンウィークに、がそくてハーベストに、あそびにきました。

【くわしく】ゴーカーンやいかにあそびました。

【いたい】青いお花を見ました。

次に、整理した出来事の中から日記に書くことを決めました。「先生の経験した出来事のようすをくわしくするなら①②のどちらを選ぶ？」という課題に取り組みさせてから考えました。子ども

たちからは「②はうどんを丸めて、足でふむことと関係ないよ。」「うどん作りと関係ないからいらぬい。」などの声があがりました。ワークシートの赤丸が子どもたちの選んだものです。

さらに、ワークシートにまとめたことを使って日記を書きました。子どもたちがどのようにゴールデンウィークを過ごしていたのか、よ

うすがよく伝わってくる臨場感のある日記でした。

Aさんのワークシート

わたしたちは、ゴールデンウィークに、がそくてハーベストのおかへ行きました。

シルバニアパークでフleaちゃんとしんをとりました。

ハーベストでいっぱいあそんでたのしかったです。

Bさんのワークシート

ゴールデンウィークに、あそびにきました。

ゴーカーンやいかにあそびました。

青いお花を見ました。

子どもたちは日記をかくことに自信を持ち、意欲的に取り組む姿が見られました。書き方のモデルを示したり、できごとのようすを広げ合う活動を取り入れたり…など、様々な工夫を行ったことで、『どこに』『何を』書けばよいのかを「習得」できたからだと考えます。これからもさらなる「活用」の場を設定し、子どもたちの書く力をのばしていきます。